

—総括表—

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

【東山田地区】東山田1丁目から4丁目は港北ニュータウンに属し、東山田町は古くからの町並みを一部に残している。長く東山田地区に居住する住民と港北ニュータウンに居住する比較的新しい住民とが連合町内会の取り組みを通し相互に協力しながら安心安全を目指す町づくりがなされている。地域福祉保健計画に関する取り組み等は連合として目標を意識し、達成に向けての取り組みは単位町内会ごとの活動を実施しており、住民は属している町内会以外の取り組みにも自由に参加できる様子がうかがえる。

【山田地区】すみれが丘町内会、南山田町内会、北山田町内会の3単位町内会で構成されている。多くのマンションが並び、町内会と自治会それぞれが地域づくりを行っているが、自治会をもたない大型マンションや町内会自治会に参加していない賃貸の住居も多数存在する。また各町内会が大きいため連合としての活動に困難さを感じている様子がうかがえる。すみれが丘は、最も高齢化がすすんでいる。高齢社会を意識した町内会の枠組みにとられないボランティア活動を実施する構成員がいる。北山田は北山田駅周辺を中心に若い世代の住民が多く子育て地区といえる。学習塾や障害児の放課後デイサービスが増えている。一方で6丁目はすみれが丘と並んで高齢者の多い地区となっている。商業振興会の活動も盛んで山田富士公園を活用した祭ではエリアを超えた住民の参加の様子が見られる。町内会の役員は年々若返りを図っており新しい町内会の在り方を模索している様子がうかがえる。南山田は1丁目から3丁目が港北ニュータウン内に位置し、南山田町が古くからの町並みが残る地域となっている。南山田町は高齢者が多い地域となっている。民生委員が中心となってカフェの運営がなされており介護予防に関する意識が高い。

【課題】

- ①各地区で交通の便を考慮したつどい場が必要。(交流、介護予防等)
- ②総合相談に見られる傾向として多問題ケースが増えている。
- ③地域の担い手の高齢化に伴う活動の継続の困難さ。

今年度の重点的な取組

新規	継続	—具体的な取組内容—
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	「おさんぼカフェ」を通して障害理解を深め相談者に適切な情報提供ができるようまるっとプロジェクトと連携する。必要に応じ、カフェの時間を活用し相談につなげる。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	東山田地域ケアプラザエリア連絡会を開催し、地域の情報や課題について共有を図る。 1回以上/年
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	今年度から開始したエンディングノートの配布及びノートの書き方とその使用方法を説明する中で、併せて成年後見制度や消費者被害等についての注意喚起を行う(頻度:月1回以上)。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	地域の高齢者が集う活動の場として、介護予防普及強化事業を実施する。(年2事業)
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	包括エリアケア会議(兼協議体)を実施する。 「山田地区認知症の見守り」「北山田地区での介護予防活動の見える化」「東山田4のちょっとした助け合い」について検討できる包括エリアケア会議(兼協議体)を実施する。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

取り組む中で予定通り進めた内容もあれば、部分的にしかできなかった内容もあった。
「エンディングノート」は住民の関心もあり、他の施設(地区センターやコミュニティハウス等)からも周知、説明の依頼を受けた。

当ケアプラザのみでなく、東山田地域ケアプラザ圏域の連携を強く感じた。

また障害児者の理解、参加場面などで「おさんぽカフェ」に放課後児童デイの利用者参加もあり、すそ野が広がった。
新たに「ボランティア」の必要を確認し、今後取り組むことが必要になった。

「おさんぽカフェ」について、一般の方、障害児者の参加が広がった。特に障害児放課後デイの利用者参加などすそ野が広がる。具体的な相談をつなげるまでは至らないが、今後も参加者と支援者へのつなぎをすすめていきたい。

「東山田地域ケアプラザ エリア連絡会」を年4回実施した。介護サービス事業所のみならず、薬局薬剤師や地域のボランティア団体と情報共有や検討場面が構築できた。今後も連絡会活動を広げていきたい。

「エンディングノート」の配布や説明の場面を包括 社会福祉士を中心に年間通して実施した。町内会、老人会、地区センターやコミュニティハウス、認知症カフェなど広く周知を進め、老い支度について考える機会を作った。併せて制度活用や消費者被害の防止など周知した。今後も「エンディングノート」をきっかけに考える機会を構築したい。

「介護予防普及強化事業」として、2つの講座を実施。2つの講座はともに運動だけでなく、栄養と口腔ケアの話も盛り込み、介護予防の理解を深める機会となった。「ボールを使った運動講座」は12月から自主活動グループとなり、介護予防に資する活動になっている。「スマイルエクササイズ」は2月から自主活動グループの活動が開始予定。

「包括エリアケア会議」は「北山田地区での介護予防活動の見える化」を実施。地域関係者や老人会、リハビリにかかる介護サービス事業所と見える化推進を確認した。今後も作業に向けて、作業のワーキンググループを立ち上げていく予定。他の包括エリアケア会議については関係者と内容や日程を協議して進めていく。

区からのコメント